

ドル/円相場のトレード戦略

【ドル/円 週足】



■中期展望

本年の展望は、2018年の世界経済環境に関しては2017年の延長線上にあり、大きく変化する要因は見当たらず、通貨の強さも2017年の構図をおおむね引き継ぎ、ドル/円に関してはレンジ内で安定的に推移する可能性が高いと考えてきました。

堅調な米景気、FRBの利上げ観測の継続はドルを下支えし、緩やかなドルの上昇が期待できるため、大幅なドル下落のリスクは低いように考えられるものの、2017年12月のFOMCで発表されたドットチャートによると2018年は3回の利上げが予想であり、その点から考えると米国の長期金利の上昇幅は限られたものとなる可能性が高く、ドルの上値も限りがありそうで、昨年の高値水準が上値目標としてきました。

しかし、1月の相場は、年初に113円台の高値を付けて以降、ドルはじり安となり1月後半には108円前半まで値を下げました。

さらに2月に入ると、トランプ米大統領が洗濯機と太陽光パネルに対してセーフガード（緊急輸入制限）を発動することに署名し、貿易摩擦に対する懸念が拡大したことやムニューシン米財務長官が「弱いドルは貿易面で米国の利益になる」と発言したことなどをきっかけにドル安の流れが強まり、さらに米金利の急上昇と米株の急落を背景としたリスク回避姿勢の強まりから円買いが強まり、下値めどとしてきた昨年安値107円水準を下回り104円台にまで突入しました。

1

本資料は、情報提供を目的としており、投資勧誘を目的とするものではありません。掲載している情報については万全を期しておりますが、その内容について保証するものではありません。投資の最終判断はお客様ご自身でなさるようお願い致します。本資料により生じたいかなる損害については弊社及び執筆者には一切の責任を負いかねます。

ドル/円相場のトレード戦略

しかし、その後は良好な米国経済を背景にドルの買い戻しが進み10月には114円台と年初来高値を回復する動きとなっています。

12月のFOMCでは政策金利の引き上げは確実視されており、日米の金利差からはドル/円の底堅い動きが予想されます。

もともと、米中の貿易摩擦激化による米国経済への悪影響が懸念されてきており、一時は2019年3~4回の利上げという予測が、やや後退してきているためドルの上値も限られたものとなる可能性も高く、年内はレンジ相場の継続がメインシナリオといえそうです。

■短期展望

先週は、週初に112円25銭の安値をつけた後、ドルは反転し堅調な足取りを続け、トランプ米大統領が「中国と実りある対話が進んでいる」とコメントし、米中通商交渉進展への期待が高まったことで113円台を回復、一時113円71銭の高値をつけ113円半ばで週を越えました。

今週は、18日(火)~19日(水)にFOMCが予定されており、発表される政策金利見通しが注目されます。2019年の利上げ回数予想が少なくなった場合には、ドル売りの可能性もあり注意が必要でしょう。

ただし、は2019年の利上げ回数引き下げは米国株式市場にとってポジティブ材料と評価され株高が進む可能性もあり、その場合にはドルも値を戻すことになるでしょう。

したがって、短期的な波乱があっても一過性の動きの可能性が高く、112円~114円という現在のレンジ相場が継続されるものと思われます。